

## 第4回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 ( 概要 )

先般開催した、令和5年度第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

### 1. 日時

令和6年3月7日(木) 14時30分～16時30分

### 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室および WEB

### 3. 主な意見等

- 道有林について、令和6年1月末時点での立木販売実績については約 553,000 m<sup>3</sup>、計画に対して 98%となっている。令和6年度の立木販売量は、今年度同様 567,000 m<sup>3</sup>を計画しており、引き続き適切に立木販売を進め、地域における原木の安定供給に取り組む。今後も需給の見通しは厳しいが、輸入材から道産材への転換を促すべく、来年度以降も引き続き、道産材の需要確保及び製品の供給力の強化、生産の効率化、北森カレッジでの人材育成、担い手の確保、スマート林業による伐採・造林作業の省力化や効率化を進めるなど、森林資源の循環利用の推進に向けた各種施策に取り組む。
- 例年どおり補助事業は終了し、主伐中心に伐採している。製材需要の低迷は継続中だが、カラマツは道内外とも合板材の受入制限が一部緩和されている。トドマツについては製材工場向けについても全体的に順調だが、大径材の受入れ先に苦慮している。引き続き広葉樹が好調なことから、広葉樹に伐採を切り替えられるところについては切り替えている。原木の単価について、合板向け、製材向けとも、若干値下げのまま推移している中、合板については、春以降にもう一段安くと提示されている。2024 問題による運賃の上昇も含めて、ユーザーに対して製材単価の見直しを要求している。国有林材の入荷は今後も期待されているので、生産調整の必要はない。
- トドマツの建築材については、建築需要がかなり落ち込み、生産調整している。製品価格は比較的安定しているものの、電気等や生産調整による生産コストの上昇により、採算面で値段を下げられない、本来値上げしたい状況である。本州のスギの伐採が加速しているが、トドマツはスギに比べると強度は若干高いが、価格が少し高い。スギの生産量増加に伴い、価格が下落すると本州でトドマツが競合するには難しい状況と懸念している。チップ向けの原料材の長さを以前あった 12 尺を復活できないか。チップには長い材のほうが生産性が上がる。
- 国有林の素材生産については、2月までにほぼ終了し、現在は手持ちの山や立木販売箇所の素材生産を行っている。今年は雪が少なく、2月の暖気で道が緩んで生産量の減少が懸念されたが、概ね順調に進んだ。  
補正予算の発注を早くしていただいたことにより、次の素材生産請負を早い時期から開始でき

るため、4月も仕事が進んでいくと考えている。今後、生産量が増えていく中であって、少しでも順調に進めるためにも条件のいい箇所を発注していただけると非常にありがたい。相変わらず機械経費が上昇し、さらに人材も急には増えないが、少しでも生産性が上がるようお互いに努力していきたい。

- トロマツの建築用製材は弱含みではあるが、輸入材の価格動向や入荷の不透明さにより、大きな受注の減少には至っていない。合板市況は、販売量の減少により生産調整を始めており、今後一段の値下げ基調となる見込みで、原木についても下げ圧力が強くなると考えている。移出合板材は前年比 50%だが、前年の下期から安定している。輸入製材については、為替によるコスト上昇により、本州の集成材工場では多少価格を戻す傾向にあるが、需要が減退している状況から、価格の下落を懸念している。
- 製紙工場は昨年末より針葉樹の入荷が進み、在庫に余裕が出てきた一方で、チップ工場は原料の集荷が厳しい。次年度の輸送問題を踏まえ、原料の調達を計画的に減らしていく方向で、針葉樹原料材はバランスが取れてくると予想している。チップについても、背板が回復しないものの、輸入ペイマツの余剰により価格が下落していることから、原料材の不足感は解消されるのではないかと。
- 桧木については、ここ数ヶ月間落ちている印象だが、今後はある程度の需要はある見込み。当社では、輸入材から道産材への転換に備え、例年の7割が続いていた原木消費量を、今月は例年通りの消費量に戻した。様々な要望の話が聞こえてくることから、需要をしっかりとつかめるよう供給体制を固めていきたい。先行きは引き続き不透明なことから、状況に合わせていく。国有林については、先々の需要に備えるため、現状の計画を進めていただきたい。
- 梱包パレットは一昨年夏から継続して低迷しており、受注は例年の3割減少し、住宅用木材より動きが悪い。現在は春先に備え、入荷調整していないが、減産している生産量と同程度しかカラマツが入荷できず、さらに入荷が減少する春先の在庫を心配している。トロマツについては、国有林のシステム材を含めある程度安定している。昨年は夏の材の虫害による歩留まりの低下により、生産コストが上昇した。伐採した丸太を即出材できるような体制をお願いしたい。原料の安定供給に資することから、国有林については現時点の計画を維持していただきたい。
- バイオマス発電は市況による影響をほぼ受けないが、現在原材料の価格高騰で、規模の小さいバイオマス発電所は、原材料のコストを占める割合が高く、収益を圧迫している。当初の事業計画策定時から原料コストが大幅に上昇しているので、いかに原料コストを下げて、当時の事業計画に近付けるかが問題となっている。災害の被害木処理について、今後の災害に備え、迅速にスキームを組んで、被害木を処理するシステムを確立したい。